

## 時評

### 人、忘れ易く、歴史は繰り返す

先日、NHK で working poor の問題を取り上げていた。製造コストの安さを求めるグローバリゼーションの中、アメリカの製造業がアメリカを離れ、その結果として、かつてアメリカを支えていた製造業従事者がまともな仕事にありつけず、white も colored もそのマジョリティーが、働いても働いても生きてゆけないような所得水準に落ちている、そして、人口の 10% が富の 70% を占め(この数値は正確には覚えていないが感覚的にこのような印象)、日本もその後を追っている、と言ったものであった。

かつて、産業革命により発生した少数の大資本家が、「人あまり、物不足」の社会状態を背景として、安い労働力を使って資本を増大させてゆく中で、儲けを高めるための劣悪な労働条件と環境悪化を伴っても、労働者を搾取しても、利潤を追求することが、資本を提供した人に対する当然の義務とされた。資本の論理である。これに対する労働者の動きとして、共産主義や社会主義が生まれた。

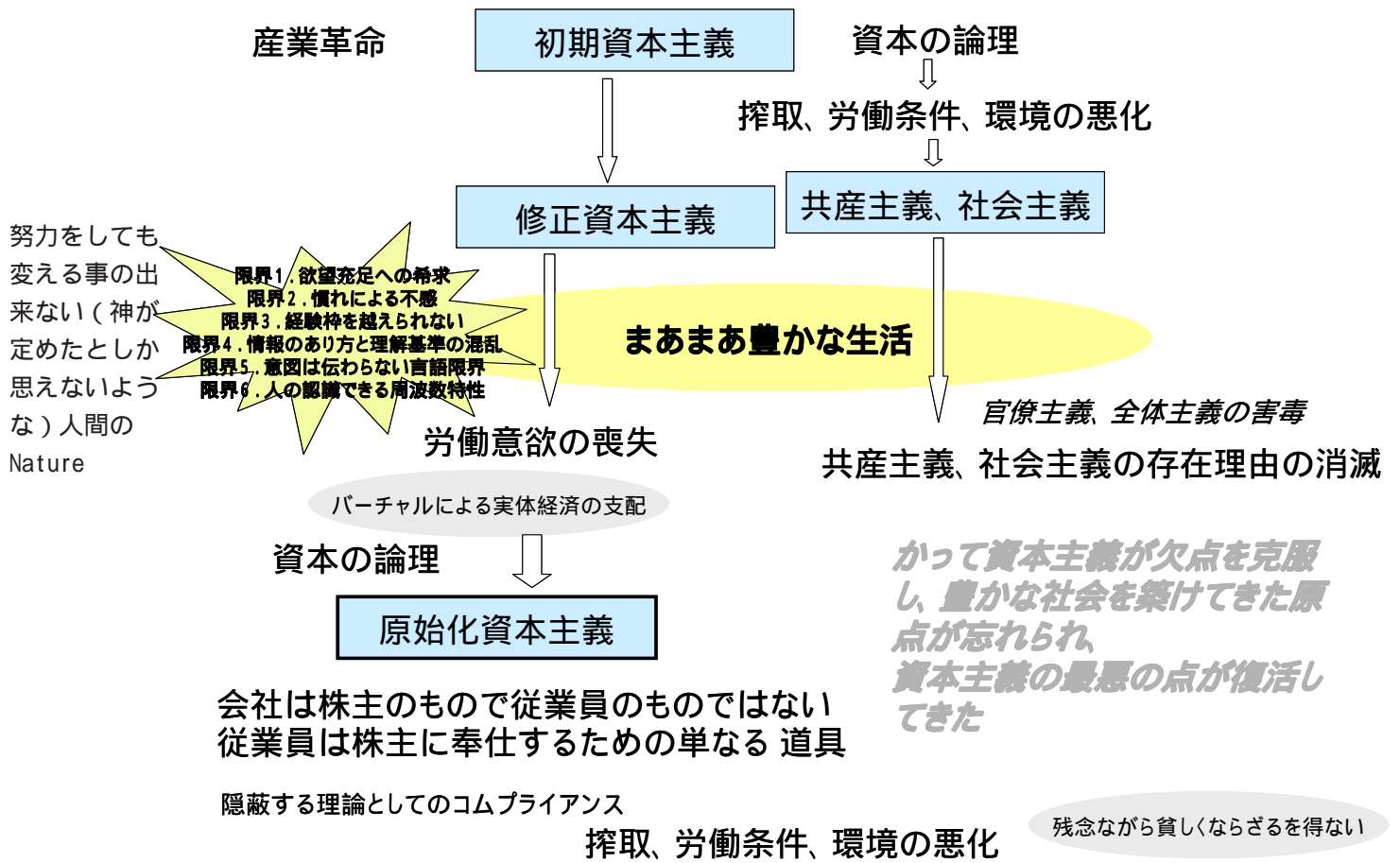
この状況を放置しては、長期的には資本主義が自分で自分の首を絞めることに人は気づき、**初期資本主義**の欠点が次第に改められた。また、ケインズによる経済理論が実践され、いわゆる**修正資本主義**が経済を支配するようになり、資本主義世界の人々を、昔からは考えられなかったような豊かな状況、すなわち底辺に近い人たちでさえまあまあ生活ができる状況が実現された。こうなると、多くの人々の生活を修正資本主義世界ほどに改善できなかった共産主義等は、その存在理由を失い、また、全体主義、官僚主義的色彩を持って一部の特権階級のみが甘い汁を吸っていた状況とも相まって、壊滅した。

この記事中の写真は、本文と関係ありません。



Max Schreck starring as Count Orlok in movie "Nosferatu"

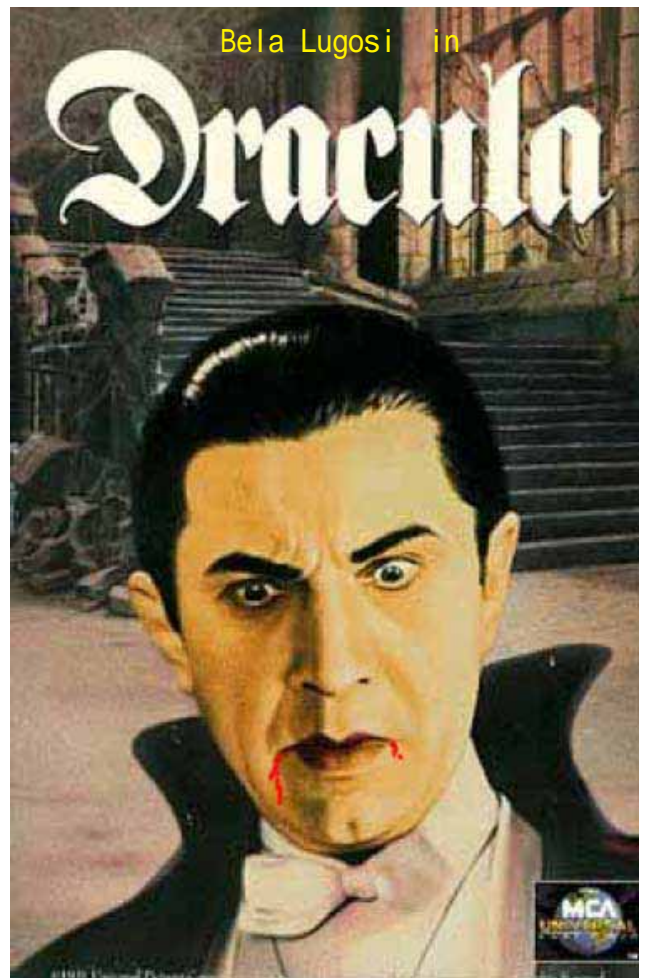
一方、豊かな生活が当たり前のこととなると、



どうしようもない人間の本性として、人は働かなくなって、且つ、利益だけを得ようとするようになる。ここに時期を合わせるように、人は電脳を進歩させた。これが電子計算機であったときには誰も気づかなかったことであるが、Information Technology として地球上の情報について、時間と地域の差、距離をなくすようになったことで、大きな問題の芽が生まれた。すなわち、優秀な技術者が新しい技術を作り、頭の良い資本家がそれを利用して産業革命を起こしたのと全く同じ事を、今度は IT を道具として、頭の良い利に聡い人々が、修正資本主義の security holes をついて実行可能なことに気づいた。少量の毒は薬であり、多量の薬は毒であると言う昔から分かっている真実には気づくこともなく、人々に、それは進歩であり、善であると信じ込ませる状況が進展した。そして、実体の裏付けのない信用通貨と契約で実体を牛耳る、バーチャルエコノミーによる実体経済の支配が蔓延しだした。

景気変動の高周波成分着目した投機で資産を増やそうとする博打打ちが世界を席卷しだした。長期的な景気動向とその中における人の生活を豊かにするための企業の発展という、景気変動の低周波成分に着目した修正資本主義が本来持つべき投資の意味など誰も考えなくなった。株主がそのように変質していても、会社は株主のもので従業員のものではないという資本主義のある一面のみが宣伝された。高校生がうまく博打を当てると、何十秒で何億円と儲かる世界であり、地道な努力

や勤勉なんぞ、糞食らえの世界である。かつて息の根を止められたはずの吸血鬼、資本の論理の復活である。そして、従業員は、株主が吸血鬼であっても、それに奉仕する義務を負わされた単なる道具に再び成り下がった。そして、搾取、労働条件・環境の悪化のいう初期資本主義が認識したはずの問題点が、再び、前と同じように起こってきている。体の細胞がガン細胞に変身するように、修正資本主義の中から生まれてきた**原始化資本主義**の繁茂である。教育においても、ガキの時から、まっとうに働くことより博打の打ち方を教えることがもてはやされている。この結果がどうなるかは、「歴史は繰り返す」であろう。しかし、再び豊かな安定した状況になるまでは、かつてそうであったように、残念ながら、マジョリティーの人々の生活は貧しくならざるを得ない。



幸いなことに現在の資本家は、まだ全てが景気変動の高周波成分のみに着目する投機家ではない。ここに大きな救いがあるのかも知れない。彼ら、すなわち、景気変動の低周波成分に着目した本来の投資家が、投機家を打ち負かせるよう知恵を使わねばならない。

（文責 久保愛三）

## —— 京機短信への寄稿、宜しくお願い申し上げます ——

### 【要領】

宛先は京機会の e-mail : [jimukyoku@keikikai.jp](mailto:jimukyoku@keikikai.jp) です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。宜しくお願い致します。



## レオナルド・ダ・ヴィンチ記念国立科学技術博物館 (つづき)

Museo Nazionale della Scienza e della Tecnica Leonardo da Vinci

吉田 英生 (航空宇宙工学専攻)

yoshida@mbox.kudpc.kyoto-u.ac.jp

### 3. Leonardo Gallery

Firenze 近郊の Vinci 村で生まれた Leonardo は 14 歳で Firenze の Verrocchio 工房に入った後, 30 歳で Milano に移る. そして 60 歳で Milano を去るまで Leonardo の活動拠点はまさしく Milano であった. そのような縁で, この博物館の圧巻は, なんとといっても "Leonardo Gallery" である. 入り口の左側には図 4 のように, ウィトルウィウスの人体図 (De mens van Vitruvius) があり, 壁の向こう側には最後の晩餐の大きな複製図が掲示されている. "Leonardo Gallery" の詳細については博物館 HP から引用しよう.

One of the main attractions of this great Museum is its display of over one hundred models illustrating the work of Leonardo, foremost engineer and technologist of his era. The models depicting Leonardo's designs are of educational value first and foremost, since they allow the non-specialist public, particularly schoolchildren, to appreciate an interpretation



図 4 Leonardo Gallery

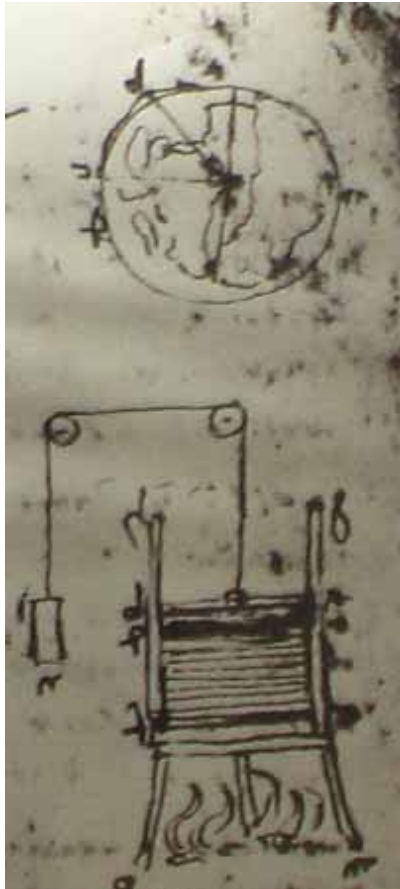
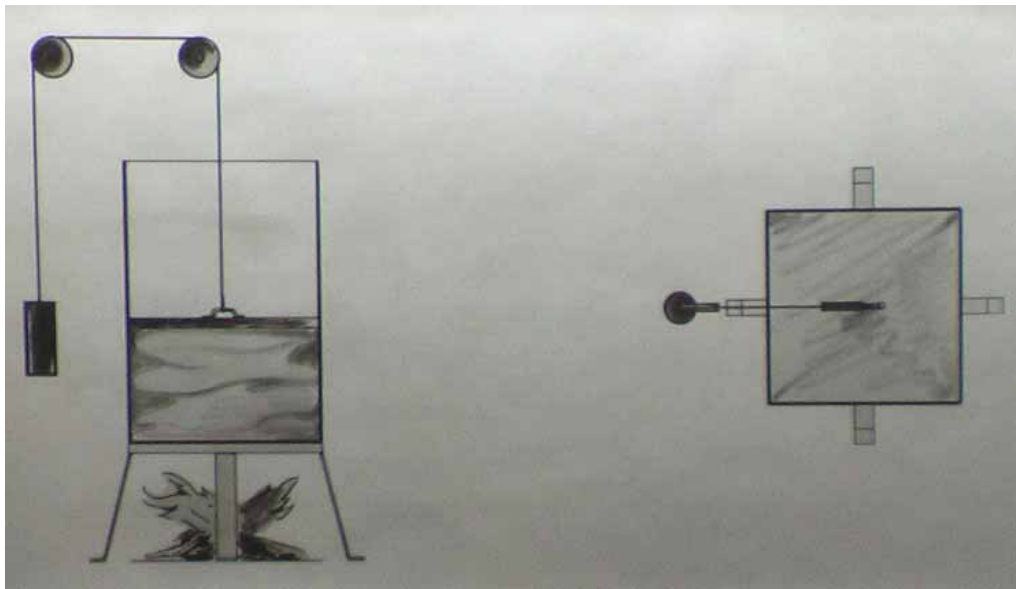


図5 水蒸気の圧力を測定する装置

**Device for measuring water turning to steam**

The instrument devised by Leonardo was used for carrying out experiments and measuring the expansion and pressure of steam. The device consists of a container filled with cold water. The container has a lid with a weight attached to it. When the fire is lighted, the water is heated and it gradually increases in volume. The weight outside tends to fall, thus measuring the pressure exerted by steam against the lid of the container. The whole experiment could be watched through a membrane stretched tightly over the lid of the container. (展示説明文をそのまま引用)

of drawings which in themselves are not always easy to comprehend. Most of the models were constructed for the exhibition of 1952 organised by the National Committee honouring Leonardo in the fifth centenary of his birth (1452). Every Sunday starting from June 18 till Sept. 10 an english speaking guide will be available at the entrance of the Science Museum for free guided tours of the Museum, particularly of the Leonardo section.

いうまでもなく Leonardo は、画家（ただし完成品は数えるほど）、建築・土木・機械工学、さらに解剖学などのあらゆる分野に第1級の仕事をした天才である。工学の中でも、とりわけ飛翔に関する研究は先駆的で、また渦の図などもよく描いて流体力学に深い関心を寄せていた。その Leonardo と熱の接点はあるのかどうかというのが、筆者の素朴な疑問であった。

Leonardo Gallery には、Leonardo が設計・考案した機械や装置の模型が 20 点ほどゆったりと展示されている。博物館の所蔵品は膨大であるので、この展示はおそらくときどき入れ替えられるのであろうと思われるが、筆者が訪問した際には、幸

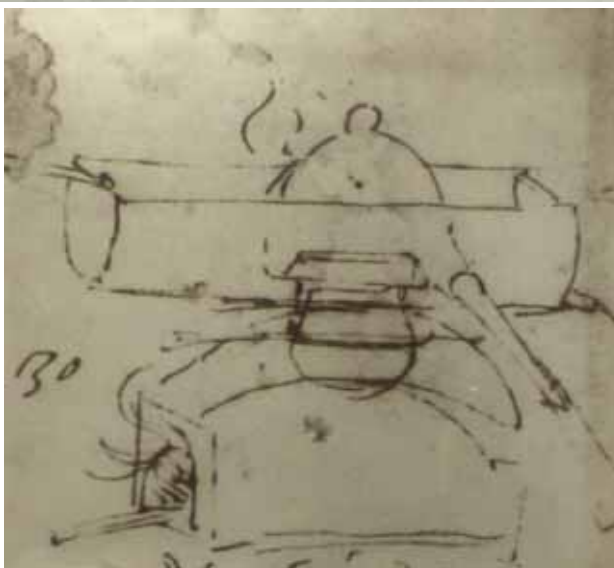


図6 蒸留器

### Continuous cooling distiller

The characteristic feature of this alembic was a very broad condensing surface. The section in which the fire was produced was separated from the one containing the cooling water by a central section exposed to air. This system was designed to reduce the sudden change in temperature, which would damage the glass and ceramic containers.

The folio comprises the drawing of an alembic and the inscription referring to it: How to obtain a clearly distilled liquid. Make sure that the water flows throughout the alembic. (展示説明文をイタリックを含めてそのまま引用)





い熱に関する展示を二つみつけることができた。

一つは図5に示す水蒸気の圧力測定装置，もう一つは図6に示す蒸留器である．さらに，燃烧にまで対象を拡張すると Conducted-flame furnace という模型も展示されていた．やはり万能の天才 Leonardo は熱にも関心を寄せ，独創的な発明をしていたのだ！ 今さらながら Leonardo の多才ぶりに感嘆させられた瞬間であった．

#### 4. おわりに

イタリアではローマ帝国以来の遺産があらゆるところに分布しており，2000年以上の歴史の重みがか人々の心の底にしっかりと宿っているように思われる．図7もその一例であろう．



図7 イタリアでは，何でもローマ風に  
上図：蒸気機関(1850年ころ)の柱に注目  
下図：鉄道の父 Stephenson の像

ローマの遺跡では卓越した土木・建築技術，また中世の石造りの大聖堂や鐘楼などでは巨大さと途方もない労力のすごさと技術の高さとに圧倒される．このような建築に関する展示説明だけは当博物館には少ない（ほとんどない？）ように思われる．あえて博物館内に模型を展示しなくても現物がイタリア国内にいくらかでも存在しているのだから必要ないのかもしれないが，イタリア国内を旅して大聖堂などの威容に圧倒された筆者は，時間を見つけて別途調査したいと思っている．

なお，Leonardo に関するイタリア語・英語の資料（さらに解剖図については厳密な日本語訳も入手可）は，当博物館よりもスフォルツァ城（Castello Sforzesco <http://www.milanocastello.it/intro.html>）の正面左側にある Book Shop に比較的多数揃えられており，旅行者には便利であることを付記する．

(おわり)



吉田神社境内





## 執行部交代

年度も新しくなったことで、京機学生会執行部 SMILE（以下、SMILE）も代替わりしました。毎年私達が活動を続けていくことができるのも、京機会の皆様のおかげであり大変感謝しております。さて今回の SMILE-LETTER は私達の一年間の活動報告として、前年度の SMILE 会長からの一年間の総括と、新会長から今年一年の抱負をお送りいたします。

### 昨年度の活動を振り返って

SMILE 前会長 田中 翔  
sho\_tanaka1030@ybb.ne.jp



2003年の夏に発足した SMILE も早いもので、今年で発足して5周年となる。その節目に向けて弾みをつける四年目の昨年度、我々はこれまでに培ってきたノウハウを活かし、さらなる京機会の発展のため、『挑戦と創造』を掲げて積極的に新しいことに取り組み、メンバー各自がモチベーションを高く維持し主体的に活動することで、SMILE は多くの成功を収めた。

例えば SMILE は昨年度、初の京機学生会支部総会の開催を京機学生会支部の代表として実現することができた。まだまだ支部として若く、手探りで作り上げた感は否めないが、それでも組織拡大・京機会発展のための第一歩を踏み出せたと思っている。しかし、このことにより SMILE は学生支部の代表という責任ある立場になり、組織としてさらなる進化を遂げる義務があると実感している。現在は、学生支部総会の規約作りや会計制度の見直し等、よりしっかりとした組織にするための準備を進めており、このような SMILE を取り巻く環境の大きな変化が今後の活動においても重要な契機になるものと考えている。

次に、昨年度の SMILE が取り組んできた挑戦と創造について報告する。  
新たな試みとして、京機会関西支部と手を組み、異業種交流会をサントリーで行っ

た．いままで異業種交流会は関西支部が独自で行ってきたが，そこに学生の意見を取り入れてもらい学生が参加しやすくすることで，以前より交流の幅が広がる企画となった．今年もシャープ亀山工場と凸版印刷の見学が予定されており，引き続き支部間の交流を深めていく．

同じく支部間の交流として，京機会中部支部とSMILEの交流会を行った．中部支部とは中部工場見学などでお世話になり，非常に交流が盛んである．そこでさらに企画の質を上げるためにも，意見交換会として昨年度の企画の反省や今後の方針を検討するなどした．

以上の活動はどれも初の試みであり，今後も継続して行っていくことで支部間の交流が盛んになることを期待している．

このような支部間の交流以外にも我々は挑戦し続け，KARTとの連携企画・博士課程のススメ企画・修士課程を有意義に過ごすための企画・フットサル大会など，過去最多の企画を立案・実行し，そして成功を収めることができた．このような我々が昨年度掲げた『挑戦と創造』の精神は，次のメンバーに受け継ぐことにする．

最後に，SMILEメンバーの中心は修士一回生の学生であるために，毎年運営委員が入れ替わっていかざるを得ず，運営の方法が上手く継承できずにいる．まだまだノウハウとまとめるほど成熟したものではないが，京機会の先輩方，先生方をはじめ，SMILEを取り巻いてくださる多くの皆さんからご指導ご鞭撻いただきながら，今後とも継続してレベルUPしていきたいと考えている．

## 今年度の抱負

SMILE 新会長 北川 優太  
kitagawayuta@t03.mbox.  
media.kyoto-u.ac.jp



SMILEは，京機会のみならず先生方のご理解・ご協力もあり，おかげさまで今年で5年目という節目の年を迎えることができました．メンバー一同，組織の更なる成長を実現しようと意気込んでいます．

SMILEは，京機会あるいは学内において広く認知されるようになりました．また，その活動範囲も年々広がっています．このような状況の中で，今年はSMILEをさらに多くの人々に認知していただくと共に，先生方やOB，学生といったSMILEを取り巻く環境・人々との関係をより良いものにしていきたいと考えています．これまでの過去4年間で積み重ねてきたことの単なる繰り返しではなく，常にブラッシュ

アップを心がけ貪欲に頑張っていきたいと思っています。また、SMILE以外の学生同士のつながりを強め、そこで出来た人間関係を継続させる手助けもしていきたいと考えています。

SMILE を運営することは非常に責任あることですが、このような貴重な活動をしっかりとやりとげることが、自分たちの成長、ひいては京機会・京機学生会の発展に繋がると確信しています。

今後のSMILEの活動に期待していただきたいと思います。よろしくお願いたします。

京都大学フォーミュラプロジェクト KART  
プロジェクトリーダー 堀内 亮

E-Mail: ryo.horiuchi@t03.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

# KART 2007



新学期も始まり、大学の講義や新人獲得、車両製作と4月は非常に忙しい月となりましたが、メンバーは車両完成を最優先に掲げ、全力で製作を進めています。4月の会計状況は下表の通りです。



	内訳	金額	計
収入	スポンサー & サポーター	¥370,000	¥481,000
	学生負担	¥111,000	
支出	制作費	¥251,624	¥269,424
	遠征費	¥17,800	
繰越金	先月繰越金	¥1,790,937	¥1,790,937
計			¥2,002,513